

●新鮮で安全・安心な畜産物の安定供給と地産地消の推進

- 1 地産地消を推進するための技術開発
県産畜産物の有利販売を支援するための技術開発
- 2 畜産経営の高度化と安定化を促進するための技術開発
県産畜産物の安定生産を実現するための技術開発
技術シーズを創出するための調査研究



県産畜産物の有利販売を支援する技術開発



後継牛確保対策のための新技術（OPU）の実証



かながわ鶏の飼養管理技術の確立

●畜産の有する多面的機能の発揮と循環型社会への貢献

- 3 未利用資源を有効活用するための技術開発
食品残さ等の未利用資源を有効活用するための技術の開発
- 4 環境に調和する畜産を推進するための技術開発
臭気発生が少ない都市型畜産経営技術の開発
地球環境に配慮した生産技術の開発



畜産経営から発生する悪臭成分抑制技術の開発



地域資源を活用した豚肉の生産方法の検討



不耕起対応高速播種機を活用したトウモロコシ二期作の安定多収栽培技術

- 担い手の育成・確保に関する支援
- 県民の需要に応じた農畜産物の生産・販売の取組に対する支援
- 農業技術の高度化及び持続可能な農業生産の取組に対する支援
- 安全・安心な農畜産物の供給の取組に対する支援
- 地域農業の振興を図るための取組に対する支援



良質豚肉の安定生産に向けた支援



畜産後継者を対象とした6次産業化先進事例の視察



地産地消の醸成を図るための小学校での食育活動



育成牛の飼養管理技術向上のための巡回指導



乳牛の飼養環境改善による生産性向上支援



効果的な暑熱対策のためのサーモグラフィを用いた畜舎環境改善指導

組織

所長

副所長

管理課 4名（人事、庶務、予算、財産管理）

企画指導部長

企画研究課 企画調整グループ（試験研究の企画調整、情報活用、飼料の収去・分析）
研究担当 1 3名 養鶏・経営グループ（鶏の飼養管理技術・改良増殖、畜産経営管理・流通支援）
現業職員等 3 4名 環境グループ（家畜ふん尿処理・利用、環境安全技術）

普及指導課 大家畜グループ（牛の飼養管理・繁殖技術、飼料作物の栽培技術）
養豚グループ（豚の飼養管理技術、改良増殖）

普及指導担当9名 酪農肉牛グループ（牛に関する技術指導、情報提供、相談）
養豚養鶏グループ（豚・鶏に関する技術指導、情報提供、相談）

沿革

- 明治40年（1907）農事試験場に畜産科創設
- 大正 9年（1920）種畜場を設置（横浜市保土ヶ谷町）
- 昭和18年（1943）現在地に移転（高座郡有馬村本郷）
- 昭和36年（1961）畜産試験場に改称
- 平成 7年（1995）畜産研究所に改称
- 平成17年（2005）畜産技術センターに改称（普及指導部の新設）
- 平成22年（2010）農業技術センター畜産技術所に改称
- 平成26年（2014）畜産技術センターに改称